

2024年度 学校評価

I 2024年度 富士松中学校の教育

1 本校の教育目標

＜ 校訓：「自主」「協力」「創造」 ＞

「富士中プライド」

～ 富士中生としてのプライドを大切に、たくましい心と体をもった富士中生～

[めざす富士松中生]

富士松中生としてのプライドをもち、行動できる生徒

- ・「あいさつ」「感謝の心」「奉仕の心」を大切にして生活できる
- ・当たり前のことが当たり前に見える
- ・自己肯定感と自己有用感を実感できる

2 経営方針・重点努力目標

- (1) 確かな学力を身に付ける
「分かる喜び、できる楽しさ」「基礎・基本の定着」「聴くことを大切にされたきめ細やかな指導」
- (2) 豊かな心を育む
「当たり前のことが当たり前に見える」「何事にも自ら考え自ら行動する」
「自己肯定感や自己有用感をもつ」
- (3) 命の尊重と体力向上を図る
「全教育活動を通じた命の指導」「保健・食の指導と自己健康管理の意識高揚」
「いじめ・不登校生徒に対する的確な対応」「体育の授業、活発な部活動を通じた体力向上」

II 学校評価のねらいと方法

1 学校評価のねらい

教育活動、その他の学校運営について設定した目標に対し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図る。

自己評価及び学校関係者による評価の実施とその結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進める。

2 評価の方法

＜自己評価＞

- ・生徒：教育目標に基づいたアンケート（全生徒対象）
- ・保護者：教育目標に基づいたアンケート（全保護者対象）
- ・教職員：教育目標に基づいたアンケート、行事ごとの反省、学期ごとの反省（全職員対象）

＜学校関係者評価＞

- ・学校運営協議会委員：学校評価アンケート結果を資料として、学校運営協議会で現状報告と意見交換
学校経営に関するアンケート

＜第三者評価＞

- ・学校に直接関係のない専門家：特別には実施せず

※判定について

各項目について、「思う・少し思う・あまり思わない・思わない・分からない」で回答する。

「思う・少し思う」と回答した割合に対して、次のように判定する。

A判定（100～80%）、B判定（79～70%）、C判定（69～60%）、D判定（59%以下）

3 評価アンケート(全校生徒数570人)

生徒アンケート：全生徒対象（508人、回答率89.5%）※長期欠席等の生徒を除く

保護者アンケート：全保護者対象（225人、回答率44.3%）

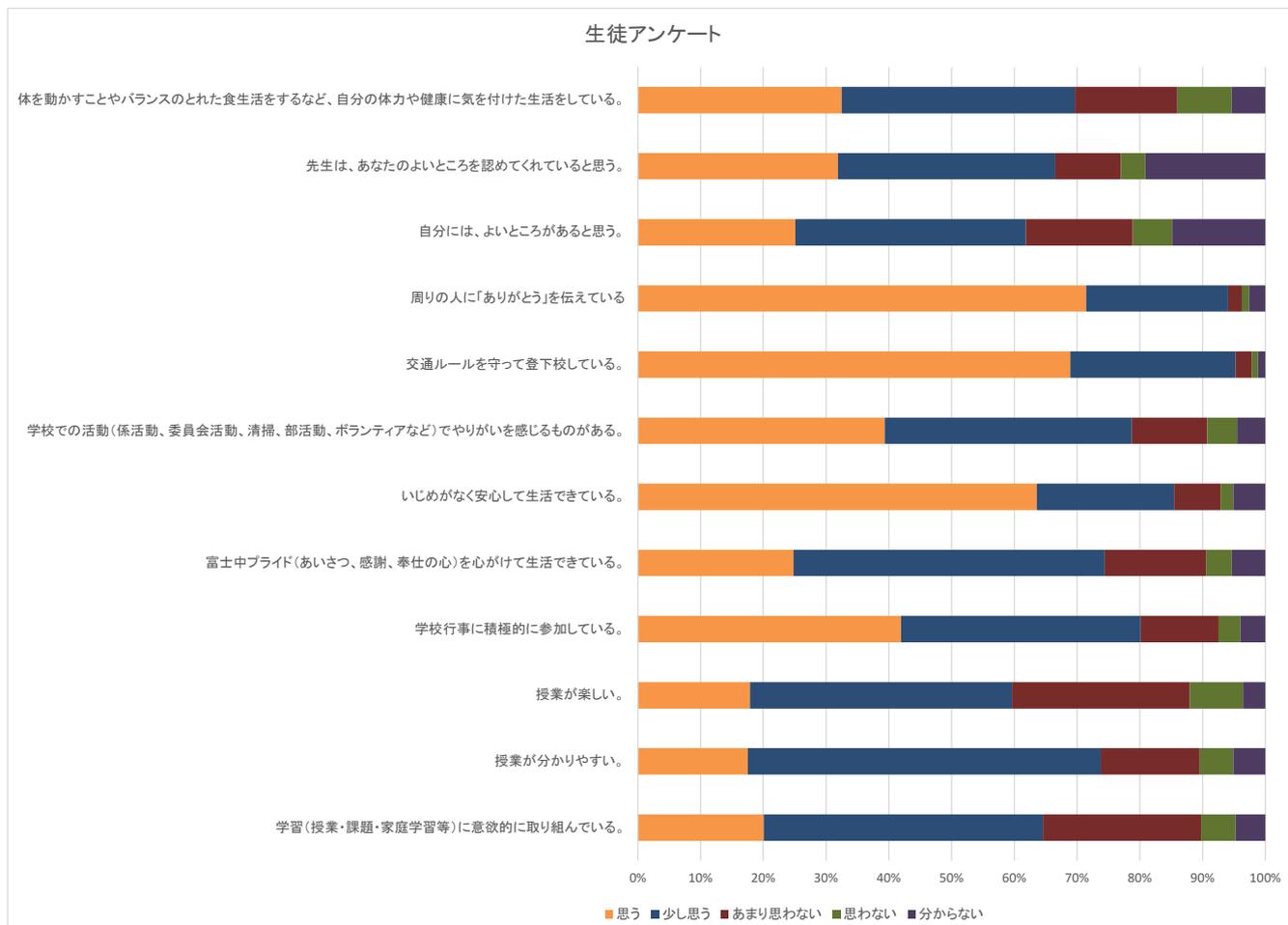
教職員アンケート：全教職員対象（28人、回答率93.3%）※療養、長期研修等を除く

・アンケートを紙面での回答から、フォームズを使用してWEB回答形式で行った。

Ⅲ アンケート結果

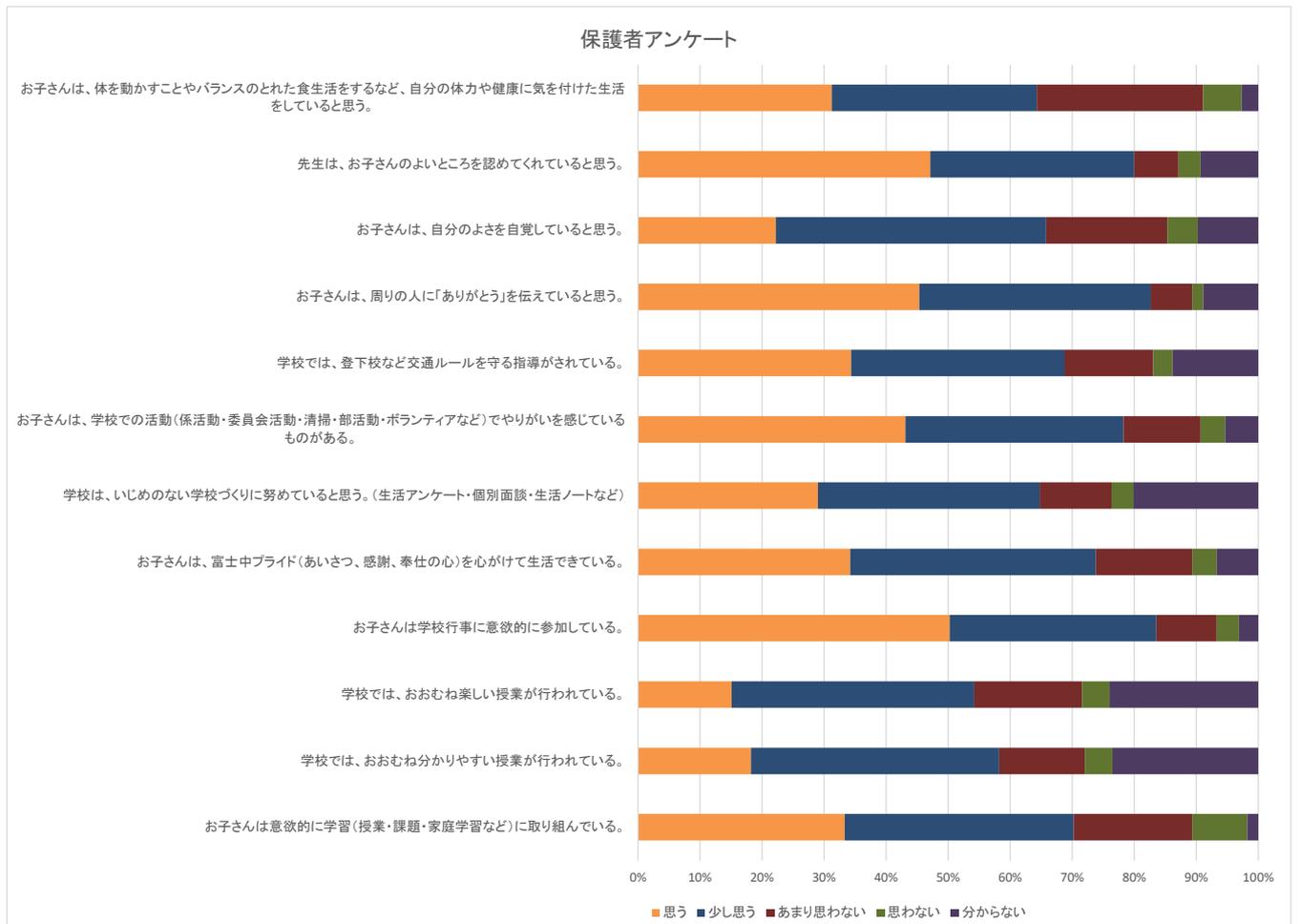
1 生徒アンケート

2024年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	分らない	思う+ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	学習(授業・課題・家庭学習等)に意欲的に取り組んでいる。	20%	44%	25%	6%	5%	64%	C
	授業が分かりやすい。	18%	56%	16%	5%	5%	74%	B
	授業が楽しい。	18%	42%	28%	8%	4%	60%	C
(2) 豊かな心を育む	学校行事に積極的に参加している。	42%	38%	12%	4%	4%	80%	A
	富士中プライド(あいさつ、感謝、奉仕の心)を心がけて生活できている。	25%	50%	16%	4%	5%	75%	B
	いじめがなく安心して生活できている。	64%	22%	7%	2%	5%	86%	A
	学校での活動(係活動、委員会活動、清掃、部活動、ボランティアなど)でやりがいを感じるものがある。	39%	39%	12%	5%	5%	78%	B
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	交通ルールを守って登下校している。	69%	26%	3%	1%	1%	95%	A
	周りの人に「ありがとう」を伝えている	71%	23%	2%	1%	3%	94%	A
	自分には、よいところがあると思う。	25%	37%	17%	6%	15%	62%	C
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	32%	35%	10%	4%	19%	67%	C
	体を動かすことやバランスのとれた食生活をするなど、自分の体力や健康に気を付けた生活をしている。	32%	37%	16%	9%	5%	69%	C



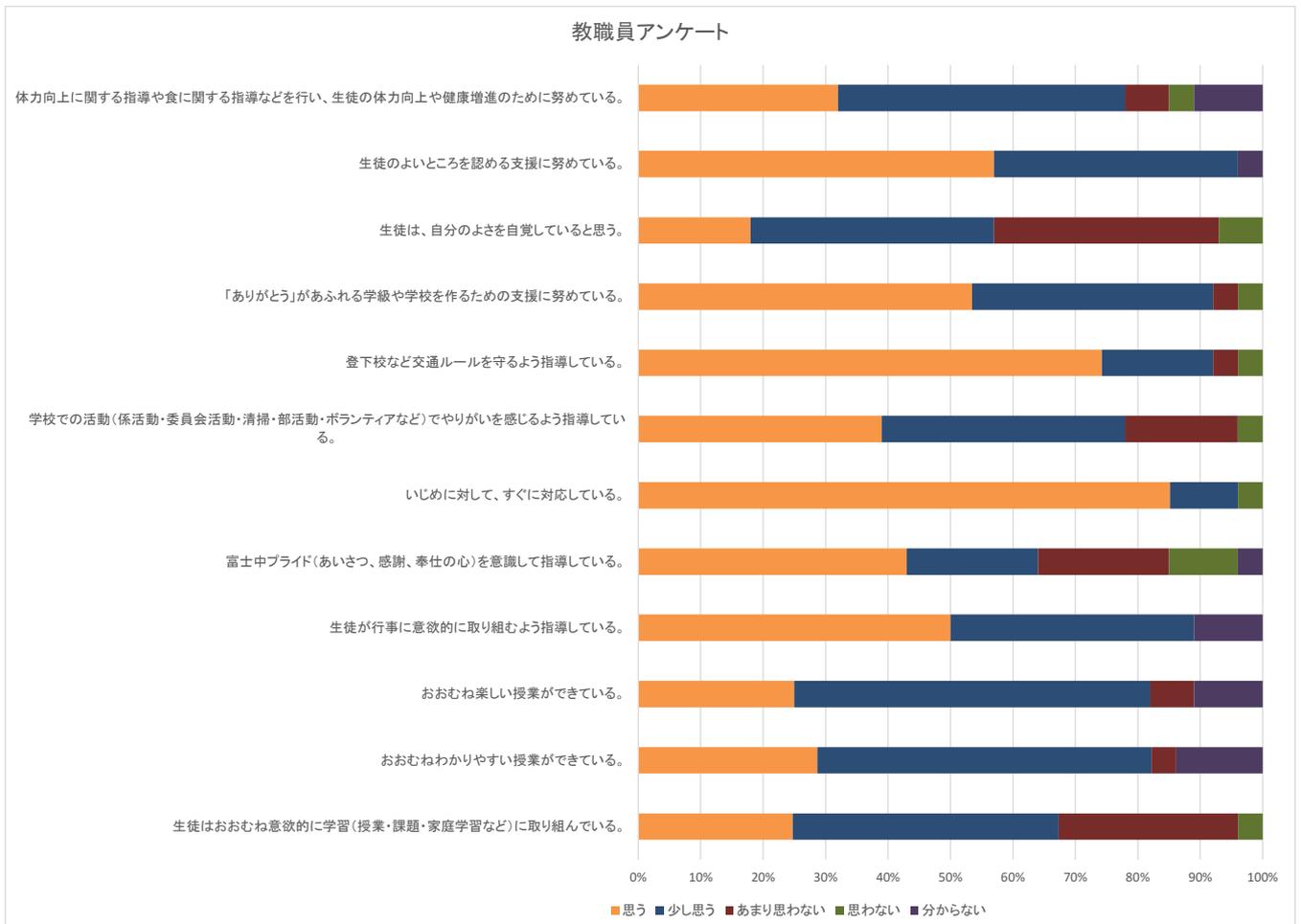
2 保護者アンケート

2024年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	分からない	思う+ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	お子さんは意欲的に学習(授業・課題・家庭学習など)に取り組んでいる。	33%	37%	19%	9%	2%	70%	B
	学校では、おおむね分かりやすい授業が行われている。	18%	40%	14%	4%	24%	58%	D
	学校では、おおむね楽しい授業が行われている。	15%	39%	17%	4%	24%	54%	D
(2) 豊かな心を育む	お子さんは学校行事に意欲的に参加している。	50%	33%	10%	4%	3%	83%	A
	お子さんは、富士中プライド(あいさつ、感謝、奉仕の心)を心がけて生活できている。	34%	40%	16%	4%	7%	74%	B
	学校は、いじめのない学校づくりに努めていると思う。(生活アンケート・個別面談・生活ノートなど)	29%	36%	12%	4%	20%	65%	C
	お子さんは、学校での活動(係活動・委員会活動・清掃・部活動・ボランティアなど)でやりがいを感じているものがある。	43%	35%	12%	4%	5%	78%	B
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	学校では、登下校など交通ルールを守る指導がされている。	34%	34%	14%	3%	14%	68%	C
	お子さんは、周りの人に「ありがとう」を伝えていると思う。	45%	37%	7%	2%	9%	82%	A
	お子さんは、自分のよさを自覚していると思う。	22%	44%	20%	5%	10%	66%	C
	先生は、お子さんのよいところを認めてくれていると思う。	47%	33%	7%	4%	9%	80%	A
	お子さんは、体を動かすことやバランスのとれた食生活をするなど、自分の体力や健康に気を付けた生活をしていると思う。	31%	33%	27%	6%	3%	64%	C



3 教職員アンケート

2024年度 重点努力目標	アンケート項目	思う	少し 思う	あまり 思わない	思わない	分からない	思う+ 少し思う	判定
(1) 確かな学力を 身に付ける	生徒はおおむね意欲的に学習(授業・課題・家庭学習など)に取り組んでいる。	25%	43%	29%	4%	0%	68%	C
	おおむねわかりやすい授業ができています。	29%	54%	4%	0%	14%	83%	A
	おおむね楽しい授業ができています。	25%	57%	7%	0%	11%	82%	A
(2) 豊かな心を育む	生徒が行事に意欲的に取り組むよう指導している。	50%	39%	0%	0%	11%	89%	A
	富士中プライド(あいさつ、感謝、奉仕の心)を意識して指導している。	43%	21%	21%	11%	4%	64%	C
	いじめに対して、すぐに対応している。	86%	11%	0%	4%	0%	97%	A
	学校での活動(係活動・委員会活動・清掃・部活動・ボランティアなど)でやりがいを感じるよう指導している。	39%	39%	18%	4%	0%	78%	B
(3) 命を尊重する 体力向上を図る	登下校など交通ルールを守るよう指導している。	75%	18%	4%	4%	0%	93%	A
	「ありがとう」があふれる学級や学校を作るための支援に努めている。	54%	39%	4%	4%	0%	93%	A
	生徒は、自分のよさを自覚していると思う。	18%	39%	36%	7%	0%	57%	D
	生徒のよいところを認める支援に努めている。	57%	39%	0%	0%	4%	96%	A
	体力向上に関する指導や食に関する指導などを行い、生徒の体力向上や健康増進のために努めている。	32%	46%	7%	4%	11%	78%	B



IV 学校評価のまとめと今後の努力事項

(1) 確かな学力を身に付ける

学習に対しては、「生徒は学習（授業、課題、家庭学習等）に意欲的に取り組んでいる」の質問に対し、生徒も教職員が C 判定（生徒：64%、教職員：68%）で、“あまり思わない”と感じている数値が生徒は 25%、教職員は 29%を占めていた。また、「授業の分かりやすさ」「授業が楽しい」の数値を分析すると、教職員は、「分かりやすい授業づくり」A 判定（75%→83%）,「楽しい授業づくり」A 判定（71%→82%）の結果であったが、それに対して、生徒の結果は「分かりやすい授業」B 判定（82%→74%）、「楽しい授業」C 判定（69%→60%）であった。つまり、学習に対する意欲の低さが課題であると考え。教職員は、生徒の実態をよくつかみ、生徒の意欲を引き出すために、生徒の「できた」・「分かった」という実感をもたせる授業づくりの改善が求められる。また、学習に対する保護者の回答では、「分からない」と応える数値が高い。そこで、生徒たちの学習の様子が伝わるように、授業公開、学校だより、ホームページなどを活用して、生徒たちの学びの様子を伝えていく努力をしなければならない。

(2) 豊かな心を育む

富士中プライドをもって生活することについて、生徒は B 判定（74%→75%）、保護者も B 判定（70%→74%）と全校集会や学校だより等、ことあるごとに伝えているため、随分浸透してきていると言える。しかし、教職員の判定は B 判定（71%）→C 判定（64%）と下降した。さらに富士中プライドを高めるために、教職員の工夫を凝らした取組をしていく必要がある。

いじめの対応について、生徒は「いじめがなく安心して生活できているか」の設問に対し、A 判定（84%→86%）と回答し、いじめに対する学校の対応について保護者は D 判定（38%）→C 判定（68%）とかなりの上昇を見せた。そして、教職員のいじめに対する対応についても A 判定（89%→94%）に上昇した。さらに「分からない」と応えた教職員が（11%→0%）となり、いじめに対する教職員の意識の変化が見られる。これは、困ったことはチームで対応しようという雰囲気があり、生徒指導主事や学年主任を中心とした対応、スマホ安全教室などの講演会、担任が生徒の変化をつかむ生活ノートへの朱書きや生活アンケートなど小さな取組を大切に、早期発見・即対応の成果だと考える。

学校行事への取組や、やりがいを感じられる学校生活の面などは、これまでと同様、肯定的な評価が多いので、次年度も同様に、生徒が主体的に取り組める行事を計画していこうと考えている。

(3) 命を尊重する、体力向上を図る

生徒の自己肯定感の数値は、高いとはいえないが、「自分にはよいところがある」の回答が D 判定（54%）→C 判定（62%）、「よいところを認めてもらっている」C 判定（64%）→C 判定

(67%) に上昇している。また、保護者の「先生はお子さんのよいところを認めてくれている」 B 判定 (78%) → A 判定 (80%) と評価が上昇した。これは、教職員の「生徒のよいところを認める支援をしている」 A 判定 (86%→96%) の数値を見ても、教職員が意識していることが、生徒、保護者によい影響を与えている。今後も引き続き、生徒のよさを認め、伝えるようにしていきたい。

刈谷市教育委員会が、学校経営の柱に「ありがとうがあふれる学校づくり」を掲げてる。そこで、本年度初めて、「周りにありがとうを伝えているか」という設問を入れた。これに対し生徒は A 判定 (94%)、保護者も A 判定 (82%) で共に高い数値であった。また、教師も「ありがとうがあふれる学校づくりに努めているか」という設問に対して、A 判定 (93%) であった。日頃から相手を思いやる気持ちや相手に感謝を伝えることが家庭や学校の中で自然に飛び交っていることは高く評価できる。

交通安全に対する評価であるが、生徒は A 判定 (92%→95%)、教職員の意識も A 判定 (82%→93%) と上昇しているが、保護者は B 判定 (71%) → C 判定 (68%) に下がっている。保護者の目から見ると、気になる点 (並進・自転車の乗り方など) があると思われる。実際に本年度は、自転車同士でぶつかってけがをするという事故が数件起きている。大事には至らなかったが、少し気を付ければ防げる事故もあった。教職員の登下校の交通指導や生徒たちの活動を通して、生徒の交通安全に対する規範意識を、今後さらに高めていきたい。